



京都・東九条CANフォーラム

ニュースレター第6号

2011年2月3日No.006

人権交流京都市研究集会に参加します

来る2月19日(土)第42回「人権交流京都市研究集会」が大谷大学において開催されます。今年のテーマは「めぐりあう！共生・協働の社会創造」で、全体集会以「TOKYO アイヌ」が上映され、午後から5つの分科会に分かれて討議が行われます。京都東九条 CAN フォーラムは第2分科会－共生社会とまちづくりの主管を務めることになりました。第2分科会においては、先ず京都東九条 CAN フォーラム代表の朴実氏が基調報告を行い、その後4人のパネリストからの報告があり、ディスカッションに行います。全体のコーディネーターは大阪人間科学大学准教授の石川久仁子氏が務められます。

基調報告「多文化共生のまちづくり～東九条マダンに託す思い～」 朴実
報告1「多文化共生教育の現場から」

希望の家カトリック保育園保育士 金光敏

報告2「関わりあおう、～じぶんからここから～」

京都市立小学校常勤講師 李大佑

報告3「モアネットの実践から～外国人高齢者生活支援から～」

京都「モア」ネット共同代表 金周萬

報告4「京都市国際化推進プラン～多文化が息づくまちを目指して～」

京都市国際化推進室長 糟谷範子

開催要項

日時：2011年2月19日(土) 午前9時30分開会(9時受付)

会場：全体会・分科会＝大谷大学・2号館等各教室

全体会：午前9時30分～正午 全体会

記念上映会「TOKYOアイヌ」 関東圏でアイヌの文化伝承や活動に携わる人々の姿の記録。どこであろうと自分の生きる場所でアイヌであり続けようとする人々の姿を、カメラは追いつけた。

分科会：午後1時30分～4時30分まで

第1分科会 部落と人権「部落差別と同和行政」	2号館2301教室
第2分科会 共生社会とまちづくり	2号館2101教室
第3分科会 人権確立をめざす教育創造	2号館2201教室
第4分科会 共に生きることをめざして	2号館2202教室
第5分科会 自由討議「私自身と差別問題」	尋源館J101教室

東九条名物シリーズ ② －ホルモンの語源－



ホルモンの語源には有力な二つの説がある。内臓は食用の肉をとった後の捨てる部分なので、大阪弁で「捨てるもの」を意味する「ほおるもん」から採られたという説(この説を採る代表は、焼肉の「食道園」)と、安くてグロテスクな内臓肉のイメージアップのために、生理活性物質のホルモン(戦後に流行語となった)にあやかって、内臓を食べると精力がつきそうなイメージから名づけられたとする説がある。意外にも「ホルモン」という名称は西心齋橋の洋食屋「北極星」が1940年に商標登録しており、(ただし、煮込み料理主体の料理である。)(「北極星」は後者の説を採る。テレビ番組「トリビアの泉 ～素晴らしきムダ知識～」においては、「ほおるもん＝ホルモン」説は嘘であるとされた。その根拠とされるのは、ホルモン料理の名称は戦前から存在し、そして戦前においては内臓料理に限らず、スタミナ料理一般、例えばスッポン料理などもホルモン料理と呼ばれたという事実からである。今から50年ほど前のころ、精肉店に「犬の餌ください」と言ってバケツ一杯20円で買い、家族皆で七輪で焼いて食べた生活体験からすると、「ほおるもん」説に共感を覚えるのであるが……。

- 個人会員 1口 1,000円
一口1,000円で何口でも結構です
- 団体会員 1口 5,000円
一口5,000円で何口でも結構です

- 賛助会員 いくらでも結構です
活動に使わせていただきます
- 特別会員 会費負担なし
どんどん活動に参加してください

**ご協力を頂いたみなさま、引き続き会費納入にご協力ください。
この活動は皆様の支援に支えられ行われています。**

振り込口座：ゆうちょ銀行 00910-7-216594 口座名義：キョウト・ヒガシクジヨウキャンフォーラム

外国人多住地域高齢者生活実態調査にご協力ください

はじめに～調査の主旨

2010年1月、NHKにおいて『無縁社会～“無縁死”3万2千人の衝撃～』という番組が放送されました。この番組では身元不明の自殺や行路死などひとりで亡くなり引き取り手もない死を“無縁死”と呼び、様々な“無縁死”からごく当たり前の生活をしてきた人が社会とのつながりを失い、ひとり孤独に生きて亡くなる現代社会のあり方を明らかにし、大きな反響がありました。このような現実には少子高齢化が激しく進む京都市市街地では大きな課題になっています。これに対応する既存の方策として介護保険制度および地域住民による活動やボランティアによる活動が行われていますが、すべての人に支援の手が行き届いているわけではありません。特に東九条は外国籍の住民が多く、京都市の助成事業である外国人福祉委員も活動している支援を必要としている人々も多いのではないかと思います。今回の調査は、陶化学区に暮らすお年寄りの日常生活や地域社会や家族とのつながりの実態、福祉ニーズなどの情報を知るために、アンケート調査を行います。生活の実態を明らかにすることによって、今後、各団体がどのように取り組めば、またどのように協力しあえばお年寄りが安心してくらすようになるのか考えるために実施します。

地域力による問題乗り越えの重要性

こうした高齢者問題に対して、福祉施策によって問題解決を図っていくことはもとより必要ですが、「地域住民の力」、「民生委員を含む地域福祉関連組織・施設」そして、「NGO ネットワーク」の連携などによって、地域力(地域のカ)を引き出し、対処していくことは一層緊急な課題となっています。こうした各アクターの連携による地域力増進は、福祉生活問題にとどまらず、災害時対策においても、また、生き生きとすべての人が輝く町づくりの点においても、重要なものといえ、これは多文化共生のまちづくりの重要なファクターでもあります。

本調査研究プロジェクト

本研究グループは、文部科学省科学研究費補助金を得て、在日外国人高齢者や中国帰国者高齢者が集住する「東九条」地域あるいは「伏見・醍醐」地域に注目して、高齢者支援のための研究を開始しております。

この地域に注目する意味は、第一に、高齢化率も高く、また、上記マイリティ高齢者が多く住む地域で多くの課題を抱えていること、第二に、さまざまな活動団体(モアネット、まめもやし、中国帰国者の会、京都外国人支援ネットワーク等)がすでに活動を行っており、こうした活動と連携協力して、いかに、地域力を高めていくかという課題を抱えているという点にあります。

調査の進め方

この調査活動は、龍谷大学・立命館大学・同志社大学・大阪人間科学大学等の研究者と市民団体が協働し、外国人多住地域における全ての高齢者を対象(無作為抽出法)に生活実態調査を行い、地域に暮らすすべてのお年寄りの福祉向上のために、インクルーシブ・コミュニティ(ひとりの人も排除せず、すべての人を包み込む地域の関係)の形成を推進するために、高齢者の孤立と不利益(ハンディキャップ)を可視化し(目に見えるようにし)、施策課題化(いま何が必要かをはっきりさせる)して、行政や地域社会に提言することにあります。この調査研究は、実態調査をし、分析し、提言をまとめるということを3年間で行う計画です。

また、この調査研究過程を通じて、様々な活動を行っている諸団体間の相互協力を強めネットワーク機能を強化し、個々の力量を高めると同時に地域全体の福祉力を高めることをめざす、アクションリサーチの性格をもつよう実行過程に様々な工夫を凝らしています。

中でも、情報の理解や生活習慣の違い等でハンディキャップをもちがちな人々である「外国人高齢者」「中国残留孤児帰国者」の地域における福祉状況向上のために、生活実態、地域との関係、固有の問題、どのような支援が有効かなどの調査研究を重要な目的として同時並行して行ってゆきます。

この調査は、第1期(2011年2月～3月)に東九条陶化地区と伏見区小栗栖地区で、500人程の調査対象者を抽出し実施します。第2期(2011年5月)には東九条地区の外国人高齢者100名を抽出した調査を実施します。

調査員としてご協力をお願いします。

この調査を進めるためには50人程の調査員が必要となります。この調査研究活動は皆様のご協力なしには成り立ちません。調査員には若干の活動費の支払いを予定しております。是非とも調査員としてご協力ください。調査員のための説明会を下記の日程で行います。

2月12日(土)午後6時 小栗栖市営住宅集会場

2月18日(金) キャンパスプラザ

説明会に参加できない方は随時個別に行くこともできます。

お問い合わせ **調査事務局 TEL075-681-2721**

京都・東九条 CAN フォーラム

〒601-8013 京都市南区東九条南河原町3

075-204-7900

<http://higashikujoforum.jimdo.com/>

E-mail/higashikujoforum@gmail.com